

## JOMF 派遣医師便り (2014. 12)

### ◆ジャカルタ◆

### 眼窩壁骨折

JJC 医療相談室

原 稔

「ラグビーの練習で左目の辺りを打撲。上を見た時に物が二重に見える」とのことで相談を受けました。片目だけで見た時は一つにしか見えないが、両目で見ると二重に見えると言います。

眼球は、頭蓋骨の眼窩という窪みに納まり、薄い骨で囲われています。目の周辺に受けた衝撃で、この薄い骨が折れることがあります。眼窩壁骨折です。眼球にはそれを動かす筋肉があり、骨折によってこの筋肉の動きが妨げられると、左右の目が同じところを向くことができません。今回のような「物が二重に見える」という症状（複視）が現れるのです。

診断を確定するには CT を施行。障害の程度によって、手術が必要になる場合もあれば、保存的に加療できる場合もあります。それぞれの状況に応じて判断せねばなりません。日馬富士は保存的に治療し、九州場所に出場していましたね。

眼窩壁骨折は、ラグビーに限らずサッカーや野球で、或いは日常生活でも起こりうる外傷です。目の辺りを打撲し、物が二重に見える場合は、「眼窩底骨折」を疑う必要があります。

日本語が通用しない医療機関を受診する際、「物が二重に見える」は「double vision」で通じます。あとは、受傷した時の状況や、どんな時に症状が出るかといったことを全力で伝えてください。